



一般社団法人
メディカルスタディ協会

◇ 中島 慶八郎氏の医療ブツタ切り 第 36 回「新・専門医制度について2」◇

文／中島 慶八郎 氏

4月のコラムにてご案内いたしました新専門医制度は平成29年4月より実施したいという国の方向に対し、6月7日の夕刻、日本医師会・病院4団体が合同で記者会見を開き、この新専門医制度は課題が多いので拙速に実施すべきではないことを表明し、国を索制しました。

大きな一因としてあげている理由は

専門医としての症例を取るためには都会の大病院でなければとれないので医師がますます都会に集中し、医療の現場が混乱し、国民に迷惑をかけることである。

6月9日に開催された第46回社会保障協議会医療部会では日本医師会、全自病等の反対で結論が出ず結局「専門医養成の在り方に関する検討会」を創設し、そこで検討することになった。

研修場所、カリキュラムの在り方、従来の認定医との関係等々を考えると平成29年度実施は不可能だと考えられる。

更には基本領域19科（その1を参照のこと）は本当にそれでよいのか？
決め方が不透明であると指摘されている。

「専門医」とは？というそもそも論からはじめなければならぬだろう。
厚労省の局長クラス等の人事異動や、日本医師会等々の新体制が定まるまでは医療・介護共に大きな動きはないと思われる。